

緑の担い手

父の背を見て…

常陸太田市森林組合
佐藤 耕 輔

私の家は元々林家です。小さな頃から父の仕事姿を見て育ちましたが、そろそろ家業を継ぎたいと考えていた時に、突然母が病気を患ったこともあり、2015年11月に実家に戻ることにしました。高校生の頃から地元を離れていたこともあり、すぐに父と仕事をするのではなく、地元の常陸太田市森林組合に就職し「緑の雇用」の研修を受けながら現場で働くことにしました。

今までの仕事とは違い、力や技術が必要な仕事に最初は本当に苦労しました。家に帰ると筋肉痛で動けなかったり、力が入らずお箸も持てなかったりと、本当に大変でした。

「緑の雇用」の研修が始まると、研修と仕事との多忙な日々が続きました。次第に他の事業体の研修生と話す機会も増え、研修で教わる事はかりでなく、研修仲間から学ぶ事もたくさんありました。作業手順や機械の手入れ、チェーンソーの刃の目

立てなど、とても貴重な情報交換の場でした。研修も2年、3年が経つにつれ、機械に乗る事が多くなり、手作業から機械作業にグレードアツプしてからは、さらに内容の濃い研修を行うことができました。

研修の終わりに、講師の先生が「次は皆が教える立場です。」と言われたように、今は新人の作業員に教える立場になりました。自分が3年間に現場で経験した事だけでなく、研修で学んだ事や、他の研修生から聞いた体験を交えて、父の仕事姿を思い描きながら教えていきたいと思えます。

また、常に安全第一を心掛けて作業をしています。現場には危険が付き物です。研修の時も、どのような講習においても「安全」という言葉を多く聞いたと思います。これからも引き続き研鑽に努め、安全作業に取り組んでいきたいと思えます。

